

2017年度(平成29年度)用  
自己点検・自己評価報告書

学校法人 水野学園  
専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ  
自己点検・自己評価委員会

## ◆評価項目の現状および自己点検・課題・今後の改善策等

項目 1	教育理念・目的・育成人材像等	
【現状】	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか 1966年創立時に定められていた理念は再度推敲され、2015年より多校化に合わせたものとなった。これらを学生ハンドブックに掲載することで、学生全体への周知が進められている。
	2	学校の将来構想を抱いているか 毎月2回実施される「経営会議」において、構想および検討がなされ、両校を通じ社会人教育の充実を図っていく必要性が話し合われた。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>前年に引き続き文部科学省が求める3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）のうちディプロマポリシーについて、具体的な検討が行われた。未だ最終決定には至っていないが、職能教育を軸とする専門学校として、身に付けた技術を社会に還元できる「仕事力」のある人材像が卒業生としてふさわしいとの合意が生まれた。</p> <p>&lt;課題・今後の改善方策等&gt;          これらを学内で醸成させるためには、教務・進路・教員が一体となった職場づくりが必要、大幅な組織改革の必要性がある。          また、本学園が目指す「仕事力のある人材像」について、各企業へどのように周知していくべきかも検討していきたい。</p>	

項目 2	学校運営		
【現状】	3	教育理念・目的等に沿った運営方針を定めているか	学校の理念、目的、育成人材像をふまえ、「経営会議」にて運営方針を定めている。設定された運営方針は、各部署長を通じ、全教職員に周知されている。
	4	中長期的な事業計画を定めているか	「経営会議」において、水野学園全体の事業計画を定めている。2017年度は中長期計画5カ年計画を策定した。初年度として、2022年までに新分野の学校開設を目標とし、その調査、可能性の検討を開始した。また、専門職大学の制度化に対して、本学園として移行が適切かどうかの調査会・検討会を実施した。
	5	運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか	理事長、学校長、各部門長により、毎月2回「経営会議」を実施し、学校運営全般についての情報の共有ならびに意思決定を都度実施している。また、全教職員を対象とした「教職員会議」を年4回実施し、全教職員への運営方針の周知徹底を図っている。
	6	人事・給与に関する規定等は整備されているか	人事・給与に関する規定「就業規則」「給与規程」等、自由に閲覧できる環境を整えている。“採用、試用期間、休職等”については「就業規則」に記載され、“昇給、各種手当、賞与等”については「給与規程」にて明確に定め、適切に運用している。
	7	情報システム化等による業務効率化が図られているか	専任の情報システム担当職員を置いている。各部署のデータを共有し、学生サービスおよび業務効率を高めるべく、システムを構築・運営している。学生管理においては㈱サーブネットの「School Leader」を利用し、大幅な業務効率化が図られている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>上記の通り、しっかりと実行されていると評価できる。</p> <p>少子化が進む中、学校運営をさらに安定させていく上で、新しい学び需要の発掘についての事業計画を設定した。様々な角度から分析・検証し、安定した学校経営のためにしっかりと取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>専門職大学への移行は、校舎面積・敷地面積の基準に大きな格差があり、現状では健全な学校運営に支障が出ると判断し見送られた。</p> <p>2018年度も安定した学校運営のための施策を検討すべきと考えている。</p>		

項目 3	教育活動		
【現状】	8	各コースのカリキュラムは目標が設定されているか、また体系的に編成されているか	各コース、学年での教育到達レベルが設定されており、そこに到達するためのカリキュラムが体系的に編成されている。カリキュラム内容については日々活発に意見が交換されており、2017年度も見直しを行った。
	9	教育方法は適正か、また授業評価の実施・評価体制はあるか	教育方法(個人の指導力に対する評価)については「ティーチング・アセスメント」を導入し、実際の授業を見学、改善点を指摘し相互評価を行った。また授業評価に関しては、学生による授業評価アンケートを9月に実施し、学生の評価を教員にフィードバックした。
	10	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	学内に教育顧問の職責をもった教員をおいている。
	11	教員組織体制が確立しているか、また教員間の連携・協力体制を構築しているか	学校長以下、教育部長、コースディレクターが教員組織を取りまとめており、組織図を共有して指揮命令系統を明確にしている。カリキュラムの交流、学校行事ごとの分科会などを通じて、教員間の連携・協力体制は整っている。
	12	成績評価や進級・卒業認定の基準は明確になっているか	学則にて明記されており、学生ハンドブックにて周知している。進級・卒業認定は、筆記試験・実習課題成績により認定されている。
	13	資格取得の指導体制はあるか	学生および教員自身の資格取得に際する指導体制が整っている。貴金属装身具技能検定については放課後にゼミを実施。3級で60名、2級で18名の希望者に指導を行った
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>&lt;自己点検&gt; 2016年度に実施したビジネスコンサルタント「LIFO診断」を実際の面談で活用すべく面談研修を実施。しかしながら、研修の実施が年度末になってしまったので実際の学生との面談では活用できなかった。2016年度に懸案であったビジネス関係の講師やコミュニケーション能力向上のプログラムについては、企業とタイアップし、実店舗を借り切って販売ロールプレイングを実施、及び特別プレゼンテーション合同授業などで前年度よりも大幅に内容を充実させた。</p> <p>&lt;課題・今後の改善方策等&gt; コミュニケーションプログラムは、学科により偏りがあった。不足している学科にはプログラム導入の検討が必要であると共に、全学科で継続的に実施していくべきと考える。 入学から卒業までの期間を通じ、学生を中心としたサポート体制のシステム・環境整備をしていきたいと考えている。入学担当、教員教務及び進路担当が、学生の情報を共有する環境が必要であり、職員室内のレイアウト変更なども改善の一つとして検討していきたい。</p>		

項目 4	学修成果	
【現状】	14	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 2018年3月31日現在、全学科平均の求職者就職率は99.3%(昨99.2%)で、昨年同様、非常に高い結果を残した。
	15	資格取得率の向上が図られているか 例年指導している時計修理技能検定については、3級合格率77%(昨72%)、2級合格率55%(昨68%)だった。貴金属装身具製作技能検定の受験結果は、3級合格率33%(昨57%)2級合格率15%(昨22%)と前年を下回った。
	16	在校生・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 在校生に対しては外部の各種コンテストや発表会・展示会などに参加することを奨励し、卒業生に関しては、同窓会や教員、教務進路職員との関係を通じ、その活躍の把握に努めることとしている。在校生・卒業生の実績は「入学案内」やホームページなどで常に紹介し、在校生の学習意欲の向上や、卒業生への情報発信、入学検討者等への学校PRに役立っている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	2017年度は、高い就職率を維持することができた。次年度以降も、企業が求める人材を輩出できるように努めていきたいと考えている。2年目を迎えた学内実施のリクルートイベント「HELLO」では、企業様と学生の引き合わせも好調で、良い成果が上がったと評価している。資格取得に関しては、残念な年度だった。次年度は、公的資格取得の支援プログラムの改訂、充実が必要と考える。	

項目 5	学生支援		
【現状】	17	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	進路相談室主催のキャリアガイダンスを卒業前年度11月から実施し、業界知識や業種職種研究、求められる人材像の説明および自己分析を指導した。企業就職希望者に対しては、3月以降に就職活動のための具体的なノウハウ指導を行うと同時に、専用のWEBサイトにおいて求人公開を行った。進学、留学に関しては、進路相談室においてすべて個別相談で対応した。
	18	中途退学者が継続して学びたい場合の支援体制、または代替えコースが設置されているか	ジュエリーの途中退学者に対しては、キャリアスクール(付帯教育、昼夜、時間登録制)への転校を進めている。一部の退学者は、授業単価も割安で、提出期限のない課題を自分のペースで学べるこのコースを選択する場合もある。ウォッチは4月開講のキャリアスクール(夜)を運営しており、3月で進級不可等による中途退学の場合は、同様にキャリアスクールでの再受講を促している。シューズ・バッグのコースには再受講コースが存在しない。専門課程での再受講を希望した場合、途中退学・除籍者であっても、再入学の資格を認めており、試験等で合格すれば、再入学を認めることにしている(2017年度は実績なし)。
	19	学生相談に関する体制は整備されているか	従来通りクラス担任と学科担当教務の連携による学生の就学指導は良く機能している。また、学生が学校長に直接意見をメールできる制度の運用などを通し、より細かい学生の相談体制を構築している。
	20	学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	日本学生支援機構等、公的奨学金以外にも、家計の急変や転科による就学年数延長者に対しての水野学園独自の授業料減免制度などを設置運用している。また、学費の分納、延納などに対しても、学生個々の状況に応じて経理課にて個人相談を行っている。
	21	学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか	学校保健法に基づき、5月に学内において全学生の健康診断を実施した。診断結果が悪かった学生には、健康管理について個別に案内・指導している。また、学内においての学生の急な傷病に対しても、保健室やAED装置の設置をはじめ、救急箱の完備や緊急搬送医院の一覧マニュアルなども完備している。
	22	保護者と適切に連携しているか	2017年度も、8月と11月に、学生の出席率、課題提出状況、単位取得状況を、担任の個別コメントを添えて保護者に送付した。この際、保護者に学園全体の教育内容などについて理解を深めてもらうことを目的に「水野学園通信」という小冊子を作成し同封している。
	23	卒業生への支援体制はあるか	卒業生は全員水野学園同窓会の終身会員として登録され、転職相談や進学等についての支援を受けることができる。2017年度には、優秀な卒業生に対して「同窓会賞」として、独立開業や再進学のための報奨制度を新設した。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、学生支援体制は整備されていると評価している。		

項目 6	教育環境		
【現状】	24	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備の改修／修繕／交換／導入は年度ごとで計画的に整備をしている。 各教室ごとの責任者を決め、常に点検している。 教室以外の施設として、図書室・学生ホールなどの環境を整えており、年1回の学生アンケートの実施を活用し改善に努めている。
	25	学外学習やインターンシップなどの教育体制を整備しているか	学則カリキュラムにおいて、学年全コースに「学外授業」を義務付けており、毎年、実施している。 2017年度実績は以下の通り(抜粋) ジュエリー＝美術館見学(庭園/三井記念/森/国立新/箱根ラリック/箱根彫刻の森)、博物館見学(東京国立/国立科学)、IJT出展・見学、ミネラルフェア見学、甲府企業見学(古屋、シミズ貴石)、各種ショップリサーチ(青山周辺/都道府県アンテナショップ/銀座) ウオッチ＝工場見学(バンビ/シチズンミヨタ佐久・飯田殿岡) シューズ＝工場見学(カネコヒール工場/栃木レザータンナー工場/世界長ユニオン鎌ヶ谷工場)、リーガル資料館見学 バッグ＝浅草・浅草橋案内、物流博物館見学、なめし革セミナー受講、皮革講座受講、東京レザーフェア見学
	26	防災に対する体制は整備されているか	学生対象／教職員対象の2種類の防災訓練を毎年実施。教職員対象の防災訓練においては、災害発生直後から宿泊するまでを想定した実践的な訓練を行っている。 防災マニュアルの作成・完備や緊急地震速報に対応したシステムの設置、5日分の非常食を完備するなど、防災体制を整えている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記の通り、施設・設備等の教育環境や防災体制は整備されていると評価している。 学外授業も多く取り入れており評価している。 立地を生かしたりサーチ授業は、ジュエリー以外でも実施する方向で検討していきたい。		

項目 7	学生の募集と受け入れ		
【現状】	27	学生募集活動は、適正に行われているか	募集案内の記載内容については学生が明瞭に理解できるよう十分に配慮して作成している。募集内容は、稟議を経て理事長、学校長の決裁を受けて作成されているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。資料請求者、入学志願者の相談内容はデータ管理され、個人情報に留意しつつ、適切な対応ができる体制が整っている。
	28	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	AO入学については全員と面接、推薦入学および一般入学については入学願書・調査書の内容により、どちらも本校で学習することに対する意思の確かさ、粘り強く物事にとり組める姿勢を出願者の選考基準としている。留学生については全員と面接を実施し、日本語能力・学費等支払い能力を総合的に判断する。
	29	学納金は妥当なものとなっているか	本校が提供する教育内容、施設等や他校の状況、社会全体の経済状況等を踏まえ、妥当な金額であると考えている。金額および支払時期については募集要項に明記している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	例年通り、適正に実施されている。 18才人口の減少に伴い、大学生/社会人向けの広報活動も随時実施している。また、留学生の募集については、留日志向の強いアジア圏からの留学生を中心に広報活動を実施。中国、韓国、台湾のほか、ベトナムやタイ、イエメンなど16か国から留学生を受け入れている。アジア圏以外では、イギリス、オーストラリア、ロシア、ウズベキスタン出身者が本学園で学んでいる。		

項目 8	財務		
【現状】	30	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	入学者の確保や休退学などの離脱者を減らすことにより、健全な財務状況を維持している。将来5年程度の見込みについて随時分析している。
	31	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算は、前年度末に翌年の予算案を作成し、理事長・学校長の決裁を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて決定している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて、予算を管理・執行している。
	32	財務について会計監査が適正におこなわれているか	顧問税理士の指導を受けながら適正な会計処理を行っている。 2017年度も5月に、監事2名による会計監査を行った。
	33	財務情報公開の体制整備はできているか	財務情報は学園ホームページにて公開している。 関係者より財務諸表等の閲覧請求があった場合は、閲覧規定に則った対応ができる体制を整えている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、適正に管理・運営されていると評価している。		

項目 9	法令等の遵守		
【現状】	34	関係法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか、また個人情報保護に関して十分な対策が練られているか	給与規程、個人情報保護規程、文書保存規程など、各規程に則り、法令順守についての総合的な管理にあっている。前述規程等は、常時閲覧できる場所に保管し、適宜確認・利用できる環境を整えている。顧問弁護士と契約しており、随時相談可能な体制を整えている。個人情報保護に関しては、個人情報保護規程を全教職員へ説明し、この規程に則って運用している。また、マイナンバーについても、特定個人情報取扱規程を策定し、適正に運用している。
	35	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価委員会を設置し、問題点の改善に努めている。
	36	学校関係者評価委員会を実施しその結果を公開しているか	毎年、「自己点検・自己評価報告書」を元に、学校関係者評価委員会を開催し、その結果をHP上で公開している。
	37	教育情報の公開は適正に行われているか	前述の各報告書のほか、「学校情報」を各年度ごとに更新し、HP上で公開している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>学校教育法、私立学校法、学校保健法、税法等の法令を遵守して学校運営が適正に行われている。</p> <p>自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価委員会議事録、2018年度学校情報は、ホームページにて公開することとしている。</p>		

項目 10	社会貢献		
【現状】	38	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<p>水野学園として、校舎敷地内に井戸を設置した。有事の際には、必要に応じて近隣への支援も検討していきたい。</p> <p>自転車博覧会に、本校卒業制作展にて出展した作品を試乗車としてレンタルした。市販車と異なるオリジナル自転車は、参加者の自転車への興味喚起に貢献した。</p>
	39	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	現状、奨励、支援は行われていない。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>校舎敷地内に井戸を設置した旨を、町内会等に知らしめる必要がある。</p> <p>ボランティアに関しては、学生自身の積極性を尊重し、授業に支障が出ない範囲で支援しようと考えている。</p>		

項目 11	国際交流	
【現状】	40	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか 教務部内に「留学生センター」を設置し、入学相談室留学生担当と連携のもと、在学する全留学生の在留資格管理をはじめ、資格外活動(アルバイト)状況の把握などに努めている。2017年度からは、学生のビザ更新を学校が代行する「取次申請」を開始した。ビザ更新のために学校を欠席しなくてよかった。適切な管理は継続されており、2017年度も入国管理局より「適正校」の認定を受けた。
	41	グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか 毎年恒例となっている海外大学の交換留学について、2017年度は春期(4月～7月)に2名、秋期(9月～11月)に3名の計年間5名を交換留学生として受け入れた。本学からは秋期にドイツに1名を交換留学生として送り出した。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記の通り、海外交流は2017年度も盛んに行われ、学生にとっても刺激のある1年だった。2017年度は、希望者対象ではあるものの、海外研修旅行も実施した(サイクルと同時開催)。イタリア・オランダを巡り、職人工房やギャラリー、ダッチデザインウィークなどを見学し、見分を広めた。 2018年度も本学の特徴でもある国際交流を推進していきたいと考えている。	